

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100158		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター鍋島		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島3丁目14番21号		
自己評価作成日	令和2年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年3月11日	外部評価確定日	令和2年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを、どうぞいつまでも。「お客様のありのままを受け止め、生きてこられた大切な思い出と共に、その人らしく豊かに過ごして頂きたい。」経営母体である株式会社ニチイ学館の理念のもとで入居者様一人ひとりの尊厳を重んじた接遇で経営致します。
楽しいことがたくさんある毎日を、明るい笑顔で心が通う援助を致します。お客様が一人ひとり明るく楽しい生活が出来るようにケアスタッフが寄り添ってサポート致します。と一緒に近所の買い物や散歩に出掛け、地域の人との会話や道端の小さな発見も楽しめます。季節の移ろいを体で感じることができ、近くの公園では桜や藤を春の陽気に包まれながら楽しむことができます。ホームの敷地内では菜園を設けており、野菜や花の成長を実際に育てながら楽しむことができます。折り紙、塗り絵、書道等の製作や、カラオケ、体操、ゲーム等は趣味や娯楽などを生かした生活リハビリとして行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員達は、ホームの自慢は家族的なところと口を揃える。それは職員間の連携の良さや補い合う姿勢が基にあり、醸し出しているものである。例えば、利用者の想いに気付いた職員の機転で、時には子供のように、またある時は孫のように寄り添う様子には一軒の家の暮らしが窺える。また小学生の学習の場として交流があり、それが縁となって子供達が自由に立ち寄っている。利用者には嬉しいひとときであり、待ちわびる方もいる。管理日誌に記された課題(目標)は、その時々職員達の話し合いによって掲げられ、ひとつひとつクリアすることで介護の質の向上を目指している。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社是」「経営理念」を掲示し毎日全員で唱和を行い共有している。また「社是」「経営理念」に則って日々の業務で実践している。	「社是」「経営理念」を掲示し毎日全員で唱和を行い共有している。また「社是」「経営理念」に則って日々の業務で実践している。	法人傘下として社是や経営理念は掲げられているが、事業所独自に「明るく笑顔で暮らせる生活を提供します」とも謳っている。これは旧経営者から引き継いだ時に作り上げたもので現在も変更はない。常にケアの内容を見直し、利用者毎の柔軟な対応も実践されている。独自の理念として職員に浸透しているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーでの買い物や、散歩を通じて地域の方々と交流や挨拶をしたり、空き缶拾いや清掃を実施している。また地区の小学生との交流会を毎年行い、ふれあいの時間として大切にしている。	スーパーでの買い物や、散歩を通じて地域の方々と交流や挨拶をしたり、空き缶拾いや清掃を実施している。また地区の小学生との交流会を毎年行い、ふれあいの時間として大切にしている。	自治会に加入しており、毎月の配布物によって細かい情報も得られている。事業所周辺ではあるが利用者も一緒に自主的な清掃活動を行っている事や、小学生の学習の場として交流が続いている事も特筆すべき点である。地域の一員として過ごす中で、交流後の子供達が自由に立ち寄ってくれる楽しみは大きな励みにもなっている。事業所の夏祭りに近隣住民を招く案や、今後、回覧版等を利用した情報発信も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初任者研修の見学や高校生の職場体験の受け入れを行い、施設を開放し理解を深めてもらう。また運営推進会議には自治会長や地域包括支援センターの職員さんにも出席してもらい、地域の中で情報を発信してもらう。	初任者研修の見学や高校生の職場体験の受け入れを行い、施設を開放し理解を深めてもらう。また運営推進会議には自治会長や地域包括支援センターの職員さんにも出席してもらい、地域の中で情報を発信してもらう。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、ホームの近況報告や行事の案内等を行っている。入居者やご家族から意見が出たときは、サービスに取り入れることで質の向上に活かしている。	2ヶ月に1回実施し、ホームの近況報告や行事の案内等を行っている。入居者やご家族から意見が出たときは、サービスに取り入れることで質の向上に活かしている。	概ね30分の会議である。全ての家族に案内を出しているが出席は少ない。ヒヤリハット事例等を含む事業所からの報告を行い、出席者からは忌憚のない意見が貰えるよう努めている。行政側や地域代表者からは参考になる意見も多い。今後も外部の人の目が入る貴重な機会として、また事業所をより知ってもらえる場として繋がりを深めたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中部広域連合や地域包括支援センターのおたっしゃ鍋島に出向いて、必要があれば連絡、連携を取りながら協力体制を築いている。	中部広域連合や地域包括支援センターのおたっしゃ鍋島に出向いて、必要があれば連絡、連携を取りながら協力体制を築いている。	運営推進会議の案内も利用者と一緒に手渡しで届けており、日頃から顔なじみである。問い合わせや相談事があれば電話よりもまず出向き、顔を見て話すよう心掛けている。法人母体が大きいため内部のスキルで解決できる事案もあるが、協働関係の維持にも努め、実直に対応してもらえる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務ミーティングで「身体拘束」について勉強会を毎年2回行い、絶対身体拘束をしないことをスタッフ一人ひとりに理解してもらう。	業務ミーティングで「身体拘束」について勉強会を毎年2回行い、絶対身体拘束をしないことをスタッフ一人ひとりに理解してもらう。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。現在その事例はないが、実施にあたっては家族等の承諾を理由に正当化するのではなく、止めるための工夫や方法を話し合う事としている。玄関に、センサーによるチャイム設置はあるものの施錠はない。外へ向かう利用者には付き添い、行動を抑えることもない。職員が目配り等で安全な暮らしが支援されている。また仮に不適切なケアが見られた場合は全体の事として注意喚起をし、共有が図られる。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で虐待防止に努めており、業務ミーティングで毎年2回研修を行っている。	会社全体で虐待防止に努めており、業務ミーティングで毎年2回研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	業務ミーティングで介護職員として介護保険制度についての勉強会を実施し、その中で制度についての理解を深めてもらう。入居されている方も成年後見制度を利用している方もおられ、活用を考えてる方にも地域包括の職員さんを交え、制度の説明を行っている。	業務ミーティングで介護職員として介護保険制度についての勉強会を実施し、その中で制度についての理解を深めてもらう。入居されている方も成年後見制度を利用している方もおられ、活用を考えてる方にも地域包括の職員さんを交え、制度の説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族と契約書、重要事項説明書等の読み合わせを行い、不安や疑問を取り除いてから契約を締結している。	契約時にご家族と契約書、重要事項説明書等の読み合わせを行い、不安や疑問を取り除いてから契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に気軽に話して頂けるように取り組んでいる。またケアプラン作成時には要望を伺い、サービスへと繋げている。	運営推進会議や面会時に気軽に話して頂けるように取り組んでいる。またケアプラン作成時には要望を伺い、サービスへと繋げている。	家族の来所状況は様々である。遠方であったり、なかなか来られない家族とは相互に電話を掛け合い、近況の報告は密に行われている。施設だよりは印刷発行ではなくネット上に公開され、各家族へのメッセージは2か月に一度ではあるが、利用料請求時に添えている。家族には気軽に何でも話してもらえるよう努め、今回のアンケートにある年間行事についての意見には早速対応を考えている。率直な意見にも耳を傾け活かそうとする姿勢や、訪れる家族の健康面へも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がスタッフと個人面談を行い、職員の意見や提案を聴くようにしている。また会議等でも職員の疑問や意見を聞くような機会を設けている。	管理者がスタッフと個人面談を行い、職員の意見や提案を聴くようにしている。また会議等でも職員の疑問や意見を聞くような機会を設けている。	毎月の職員会議は約一時間、2ユニット合同で開いている。休みの職員には参加判断を任せている。限られた時間ではあるが、勉強会や行事の件、また職員からの提案等々が話し合われ自由に発言もできる職場環境である。自己評価に記された個人面談は不定期に行い、日頃からコミュニケーションを図る事で気付く些細な変化に対応している。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、定時での帰宅や休み希望には出来るだけ沿う事を旨としている。就任して数か月だが、今後は職員のストレスケアにも目を向けようとしている。法人上席にも現場の声を届け、人員増を喫緊の課題としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を活用しており、賞与や賃金アップに繋がるようにしている。また資格習得に関しても手当として支給するシステムになっている。職員の勤務時間に関する要望に応じて、各職員のシフトを調整している。	キャリアアップ制度を活用しており、賞与や賃金アップに繋がるようにしている。また資格習得に関しても手当として支給するシステムになっている。職員の勤務時間に関する要望に応じて、各職員のシフトを調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成担当者、介護リーダーを養成するテクニカル研修、管理者研修、実践者研修等、必要に応じて受講している。	管理者や計画作成担当者、介護リーダーを養成するテクニカル研修、管理者研修、実践者研修等、必要に応じて受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の高齢者施設や業者、医療機関との交流を図り情報交換や助言を受けたりしている。また協力医に講義を依頼し、職員や他事業所の職員、看護師と共に勉強会に参加してサービス向上へと繋げている。	地域の高齢者施設や業者、医療機関との交流を図り情報交換や助言を受けたりしている。また協力医に講義を依頼し、職員や他事業所の職員、看護師と共に勉強会に参加してサービス向上へと繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し、入居者の話や質問に傾聴し答えることで本人の不安を解消している。また事前にアセスメントを取り、職員の受け入れ体制を整えている。	入居前に事前訪問し、入居者の話や質問に傾聴し答えることで本人の不安を解消している。また事前にアセスメントを取り、職員の受け入れ体制を整えている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や見学会を通じ、入居にあたっての不安解消に努めている。またその際にも要望等はケアプランに反映させている。	入居前の事前訪問や見学会を通じ、入居にあたっての不安解消に努めている。またその際にも要望等はケアプランに反映させている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたってご家族や入居者にとって何が必要なのか、身体状況を踏まえ必要なサービス提供に努めている。内科や精神科、整形外科等必要に応じて紹介を行い、サービス利用に繋げている。	入居にあたってご家族や入居者にとって何が必要なのか、身体状況を踏まえ必要なサービス提供に努めている。内科や精神科、整形外科等必要に応じて紹介を行い、サービス利用に繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族(ホーム)としての信頼関係を築き24時間入居者を支えていくことを理解してもらうとともに、自立支援の確立を目指し、入居者にも相互扶助の目標を持って頂く。	大きな家族(ホーム)としての信頼関係を築き24時間入居者を支えていくことを理解してもらうとともに、自立支援の確立を目指し、入居者にも相互扶助の目標を持って頂く。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調を含め日常生活状況を面会時やケアプラン作成時に連絡しながら、入居者を共に支えていく信頼関係を築く。	入居者の体調を含め日常生活状況を面会時やケアプラン作成時に連絡しながら、入居者を共に支えていく信頼関係を築く。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにより、大切にされていたものや好みを把握し、入居者には他の入居者との関係を良好に保てるように支援する。また面会時や、外出、電話を利用して今までの関係を保つようにしている。	入居前のアセスメントにより、大切にされていたものや好みを把握し、入居者には他の入居者との関係を良好に保てるように支援する。また面会時や、外出、電話を利用して今までの関係を保つようにしている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族はもとより、担当のケアマネージャーや利用していたサービス事業所、病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援として、電話の取り次ぎは自由であり(携帯電話を所持する利用者もある)、年賀状や手紙を手伝うこともある。また盆正月には家族の協力を得て帰宅(宿泊)したり、墓参りに出掛ける利用者もある。これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションを通じて他の入居者との関わりを円滑に保つようにしている。また水分補給や入居者同士が気軽にリビングを共有できて会話ができるように支援している。	体操やレクリエーションを通じて他の入居者との関わりを円滑に保つようにしている。また水分補給や入居者同士が気軽にリビングを共有できて会話ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院退去の契約終了の場合であっても退去時に相談があれば気軽に連絡できるように説明する。	長期の入院退去の契約終了の場合であっても退去時に相談があれば気軽に連絡できるように説明する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員を担当制にし、入居者の意向や希望を吸い上げるようにしている。ご家族と連携して、できるだけ希望に添えるように支援している。	職員を担当制にし、入居者の意向や希望を吸い上げるようにしている。ご家族と連携して、できるだけ希望に添えるように支援している。	日々のケアの中で心掛けている事は利用者にあった距離感を保つことである。スキンシップや選択肢を示す話し方など利用者毎に柔軟な対応をしているが、特に一対一で話し相手をしている時などは想いを話してくれる事もある。聞き取った事は口頭であったり、介護記録簿に記し共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や本人から色々と話しを伺い、情報を共有し支援を行っている。また生活の中でコミュニケーションを図りながらニーズを引き出している。	入居前にご家族や本人から色々と話しを伺い、情報を共有し支援を行っている。また生活の中でコミュニケーションを図りながらニーズを引き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にあった生活のリズムを把握し、身体状況に応じた生活を送れるように支援している。	入居前にあった生活のリズムを把握し、身体状況に応じた生活を送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で日々の状況や身体状況を把握し、またご家族の意見を取り入れながら介護計画に反映させていく。	カンファレンスの中で日々の状況や身体状況を把握し、またご家族の意見を取り入れながら介護計画に反映させていく。	ケアプランは、入居して間もない時期は毎月の見直しであり、その後落ち着けば3か月毎としている。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。事業所ではユニット毎にカンファレンスのみの会議を開いている。日々のケアの中で把握した本人の希望と、来所時や電話での会話から汲み取った家族の要望などが話し合われている。家族からはリハビリや現状維持を願う声が多い。それらも踏まえつつ、担当職員による報告を基に毎月モニタリングも行っている。利用者がより良く暮らすためのケアプランをと意識し練られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録により体調の変化や食事量、睡眠、排泄回数、水分摂取量まで把握し体調管理に利用している。また、それに基づいて介護計画にも反映させている。	個別の介護記録により体調の変化や食事量、睡眠、排泄回数、水分摂取量まで把握し体調管理に利用している。また、それに基づいて介護計画にも反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、本人の意向を優先し、様々な意向があるときでもできるだけ尊重しながら対応している。	ご家族、本人の意向を優先し、様々な意向があるときでもできるだけ尊重しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練の際の消防署からの指導や、自治会長さんからの地域での話しを傾聴しながら、地域資源を利用し安全で豊かな暮らしをサポートしている。	避難訓練の際の消防署からの指導や、自治会長さんからの地域での話しを傾聴しながら、地域資源を利用し安全で豊かな暮らしをサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居時にご家族と話し合い、かかりつけの病院を希望される方は受診の援助を行っている。また協力病院は往診や緊急対応を引き受けて頂いている。	基本的に入居時にご家族と話し合い、かかりつけの病院を希望される方は受診の援助を行っている。また協力病院は往診や緊急対応を引き受けて頂いている。	かかりつけ医は様々である。入居前からの医師の元へ通う方、入居後に協力医への変更を望んだ方、また元々協力医の患者だった方などである。それぞれに安心して医療を受けられるよう支援している。受診に出向く場合は家族の協力を得たり、職員のみが付き添う場合もある。その結果報告は緊急か否かで臨機応変に行っている。また診療科目によって病院を探す場合も、まず本人や家族の希望を確認している。事業所では協力医や並行して利用している訪問看護ステーションへの信頼が厚く、家族アンケートでも殆どが心配はあまりないと回答している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回のバイタル測定を実施し、医療機関や訪問看護との連携を行い、適切な対応を行っている。	毎日2回のバイタル測定を実施し、医療機関や訪問看護との連携を行い、適切な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが準備、付き添いを行い、病院に情報提供をしている。また退院時もスタッフが対応し、退院後の支援が円滑に行えるように努めている。	入院時はスタッフが準備、付き添いを行い、病院に情報提供をしている。また退院時もスタッフが対応し、退院後の支援が円滑に行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を取り入れながら医療機関や訪問看護と連携を図り、ホームの中で生活が継続できるように支援を行っている。また介護計画にも反映している。	ご家族の意向を取り入れながら医療機関や訪問看護と連携を図り、ホームの中で生活が継続できるように支援を行っている。また介護計画にも反映している。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意もある。容態の変化に伴い、揺れ動く家族の気持ちも踏まえ、何度でも話し合いを重ねる事としている。医師からの説明も可能であり、家族にとっては納得のいく対応である。また職員のフォローとして、ターミナル開始となった時点で再度勉強会を行う事としている。本人や家族が安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時に備えマニュアルを作成し、入居者の異常があったときには迅速に対応できるように努めている。また業務ミーティングの中でも勉強会を設けて各職員が対応できるように努めている。	緊急時や急変時に備えマニュアルを作成し、入居者の異常があったときには迅速に対応できるように努めている。また業務ミーティングの中でも勉強会を設けて各職員が対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。また避難場所の確保や非常食、水など災害時の準備をしている。自治会長とも災害時の対応など話し合っている。	避難訓練を年2回実施している。また避難場所の確保や非常食、水など災害時の準備をしている。自治会長とも災害時の対応など話し合っている。	年2回の訓練は昼間帯に行い、そのうち一回は消防署も立ち会っている。夜間は想定のみだが夜勤者が一人に対応する状態を試みている。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や火災通報装置の使い方でも承知している。非常食や水の備蓄もあり、避難場所は家族にも周知している。近年の自然災害を危惧し、水害に対してはまず事業所2階へ移動する手順を決めている。緊急時には近隣住民の協力が不可欠であることを踏まえ、今後は訓練の周知や参加依頼を課題とし検討中である。また訓練後には反省会があり、指摘等があれば速やかに改善されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合ったケアを行い、尊厳と人格を守りつつ、全員個別対応しプライベートの確保と安全を提供する。	入居者一人ひとりに合ったケアを行い、尊厳と人格を守りつつ、全員個別対応しプライベートの確保と安全を提供する。	トイレや入浴の介助では最も配慮が必要だが、ドアは閉める、ノックをする等々、基本的なことをきちんと行っている。入居して間もない利用者には同性によるケアも心掛けており、接遇の研修もある。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、業務上の会話であっても声の大きさには注意を払っている。居室の名札や掲示される写真等についても入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者と接しながら、ニーズを引き出し、入居者の意見を聞きながら自己決定できるように支援する。	職員が入居者と接しながら、ニーズを引き出し、入居者の意見を聞きながら自己決定できるように支援する。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れと入居者の希望を融合させながら希望の沿うようにする。	業務の流れと入居者の希望を融合させながら希望の沿うようにする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、髭剃り、化粧、服装など入居者の自己決定と職員の支援で毎日の清潔を確保している。	整容、髭剃り、化粧、服装など入居者の自己決定と職員の支援で毎日の清潔を確保している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や、希望、季節のもの等を取り入れながら食を楽しんでもらう。また配膳や、食器拭きなど入居者にも協力して頂き、日常生活を主体的に暮らせるように支援している。	入居者の嗜好や、希望、季節のもの等を取り入れながら食を楽しんでもらう。また配膳や、食器拭きなど入居者にも協力して頂き、日常生活を主体的に暮らせるように支援している。	基本的な献立は本部の管理栄養士が作成し、一か月分ずつが送られてくる。それを踏まえて地元食材が手に入れば一品増えたり、行事や利用者のリクエストによって差し替えもある。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な献立や食材には代替えもある。介助が必要な方もあるが、食が細かい方やなかなか箸が進まない方には傍らに座り、出来るだけ自分で口へ運んでもらえるよう促している。食器等は軽い物を使い負担を考慮している。また誕生日は当日に祝いケーキも用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や、毎日の水分摂取量をチェックして、必要に応じて刻み食やミキサー食の形態で提供したり、ゼリー状にして水分補給をしたりしている。	毎日の食事摂取量や、毎日の水分摂取量をチェックして、必要に応じて刻み食やミキサー食の形態で提供したり、ゼリー状にして水分補給をしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後の口腔ケアを行い、入居者の能力に応じ、支援を行っている。また定期的に歯科往診を行える体制をとっている。	全員、毎食後の口腔ケアを行い、入居者の能力に応じ、支援を行っている。また定期的に歯科往診を行える体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄、排便の有無や回数をチェックして健康管理をしている。また排泄時の支援も一人ひとりに合わせた支援を実施している。	排泄、排便の有無や回数をチェックして健康管理をしている。また排泄時の支援も一人ひとりに合わせた支援を実施している。	日中はトイレでの排泄が基本であり、全体の3分の2程度は自立している。しかし任せたままでなく、さりげない見守りも行っている。脱衣場の隣にあるトイレは廊下側からも入ることが出来るが、利用者によっては脱衣場側から誘導している。これは羞恥心やプライバシーへの配慮である。またチェック表からタイミングが計れることで適切な誘導ができ、パット類の使用枚数が減ることによって費用の負担軽減にも繋がっている。トイレ内の設備では手摺りはもとより、便座の両側にひじ掛けと背もたれがあり、座位の保持を含め自立の補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の機会の確保と適度な運動で便秘を予防している。また業務ミーティングで勉強会を行い、職員全員が便秘を及ぼす原因を理解し、適切な対応をとれるように努めている。	水分補給の機会の確保と適度な運動で便秘を予防している。また業務ミーティングで勉強会を行い、職員全員が便秘を及ぼす原因を理解し、適切な対応をとれるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に添い、入浴回数や時間を支援する。夏場に毎日入りたい人は夜間のシャワー浴を実施する。	入居者の希望に添い、入浴回数や時間を支援する。夏場に毎日入りたい人は夜間のシャワー浴を実施する。	入浴は週3回を目途にしているが、希望や必要があればいつでも可能である。拒む方には無理強いせず、タイミングをずらしてみたり職員のテクニックで対応している。入浴しない日には清拭や足浴等を行い、下着肌着の交換によって清潔保持に努めている。脱衣場は広く、木製のどっしりとしたベンチには安定感がある。隣にトイレがあることも使い勝手がよい。浴室の暖房設備はヒートショック対策となり、浴槽内に入れる椅子の用意は湯船に浸かり寛いでもらうための工夫である。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者に応じて就寝時間を対応。寝付けない人はリビングで水分補給をして頂いたり、職員と話しをしたりして落ち着いてから就寝して頂く。	入居者に応じて就寝時間を対応。寝付けない人はリビングで水分補給をして頂いたり、職員と話しをしたりして落ち着いてから就寝して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会社全体で誤薬に対する取り組みを実施している。毎回複数の職員で薬のセットから飲み込み確認等の支援を行っている。	会社全体で誤薬に対する取り組みを実施している。毎回複数の職員で薬のセットから飲み込み確認等の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に応じて趣味や特技を活かしてもらうように支援している。また買い物や散歩等も入居者と一緒に行っている。	入居者の能力に応じて趣味や特技を活かしてもらうように支援している。また買い物や散歩等も入居者と一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など日常生活の中で外出の機会を設けている。また個人の希望があるときは、家族と連携し本人の希望に添えるようにしている。	買い物や散歩など日常生活の中で外出の機会を設けている。また個人の希望があるときは、家族と連携し本人の希望に添えるようにしている。	利用者の多くは介護度が比較的軽度であり、自ら外出を希望する場合もある。周辺には公園や商業施設等もあり、買い物に出掛けたり、食材の買い出しをする職員に同行することもある。利用者の脚力を考慮しつつ、歩いて行ける範囲であれば車は使用しない。生活リハビリのひとつである。ドライブ等で出掛ける場合は予め計画書が必要となっている。天候や体調をみながら周辺への散歩は日常的に行われており、日差しを浴びるメリットや五感の刺激になることも十分承知している。歩行が難しい利用者でも車椅子を使い、同様に外気浴を楽しんでいる。全く外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は個人で管理されているが、理容費、医療費などの支払いはお小遣い管理を事務所で行っている。時には買い物に職員と一緒にいき、支払いをしてもらっている。	金銭管理ができる方は個人で管理されているが、理容費、医療費などの支払いはお小遣い管理を事務所で行っている。時には買い物に職員と一緒にいき、支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は本人が書かれたものは基本的に投函している。また要望に応じて職員が代筆の支援を行っている。電話の要望があればリビングにある電話を使用してもらっている。	手紙は本人が書かれたものは基本的に投函している。また要望に応じて職員が代筆の支援を行っている。電話の要望があればリビングにある電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内を明るくし、毎日の共有空間は整理整頓と消毒を行い、衛生に気を付けている。また入居者の作品や行事の写真等を掲示し楽しんでもらっている。	室内を明るくし、毎日の共有空間は整理整頓と消毒を行い、衛生に気を付けている。また入居者の作品や行事の写真等を掲示し楽しんでもらっている。	利用者が集まるリビングは明るく広い。自慢の書や出掛けた先で撮った笑顔の写真が飾られ定期的に変えている。利用者の動線上に行動を妨げる物はなく、手摺りなど手を触れる箇所の消毒はこまめに行っている。交通量の多い道路脇だが騒音は気にならない。時間を決め窓やサッシ戸を開ける換気は居室も同様に行っている。床やエアコン洗浄にはプロの業者も入っている。浴室やトイレは日頃からきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて職員や入居者同士が気軽に話をしたり、お茶を飲みながら気軽に利用できる場所として提供している。嗜好、趣味に合った話題を提供し、交友が円滑に行えるようにしている。	リビングにて職員や入居者同士が気軽に話をしたり、お茶を飲みながら気軽に利用できる場所として提供している。嗜好、趣味に合った話題を提供し、交友が円滑に行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室内は入居者とご家族が相談し、 使い慣れたものや、思い入れのある 品を飾っていただき、その人らしさ、 個性を大事にして居室内を快適に 過ごして頂く。	居室内は入居者とご家族が相談し、 使い慣れたものや、思い入れのある 品を飾っていただき、その人らしさ、 個性を大事にして居室内を快適に 過ごして頂く。	居室のベッドや家具類は利用者の 持ち込みである。火気等の危険物 以外に制限はなく、使い慣れた物 をと伝えている。それぞれ調度品や家 族の写真等があり、居心地良く過 せるよう支援している。仏壇を持つ 方もあり、職員が毎朝、水を供えて いる。各部屋にクローゼットがあるこ とで整理整頓もしやすく、掃除を手 伝う利用者もある。天気の良い日 には寝具を干す手間も惜しまない。衣 替え等は担当職員が心掛け家族に 通知している。希望があれば居室で の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	玄関はスロープを設置し、ホーム内 は段差がないバリアフリーになっ ている。また廊下や浴室、トイレにも手 すりを設置し、入居者の自立支援を 援助している。	玄関はスロープを設置し、ホーム内 は段差がないバリアフリーになっ ている。また廊下や浴室、トイレにも手 すりを設置し、入居者の自立支援を 援助している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○		1. ほぼ毎日のように
			○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○		1. ほぼ全ての職員が
			○	2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。			1. ほぼ全ての家族等が
		○	○	2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない